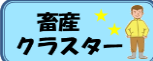


平成30年度畜産・酪農生産力強化対策事業(繁殖性等向上対策のうち効率的な生産体系の確立に向けた技術支援)の概要

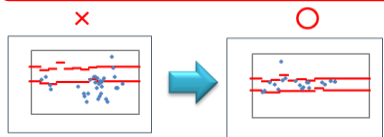
- 最新の技術を習得した畜産技術者の指導の下、地域内での繁殖雌牛の増頭に向けた技術的なボトルネックの解決を図ることが重要
- このための地域の創意工夫に基づく取組に必要な器具・装置の導入等を支援(補助率:1/2以内)



肉用牛を対象とした地域における技術の実証

繁殖性の向上

・代謝プロファイルテスト



(例)MPTによる血中グルコース濃度の適正化

血液検査により、牛群の健康状態を把握し、飼料の栄養バランスを調整すること等により受胎率の向上を図る。

・早期妊娠診断



早期の妊娠診断等を行うために超音波診断装置等を利用し、空胎期間の短縮等を図る。

・経膈採卵(OPU)、ホルモン処置



超音波診断装置を用い、OPU技術を活用し、ウシ生体卵から卵子を採取し、受精卵の生産性の向上を図る。また、ホルモンを用いた排卵の同期化を行うことにより、妊娠率の向上を図る。

・繁殖性向上機器等の整備



情報通信技術(ICT)等を活用した繁殖管理機器(発情発見装置、分娩監視装置等)を整備し、繁殖性の向上を図る。

子牛の損耗低減対策

・代謝プロファイルテスト

血液検査により、牛群の健康状態を把握し、飼料の栄養バランスを調整すること等により、子牛の損耗率の低減を図る。

・子牛の個別管理

カーフハッチ等により、子牛を個別に隔離、管理することで、病気の蔓延等による子牛の損耗率の低減を図る。



・哺乳ロボット

代用乳の少量多回給与により、子牛の消化機能への負担を軽減し、給餌性の下痢を減らすこと等により、子牛の損耗率の低減を図る。



・飼養環境の改善

飼養環境の改善との一体的取組により、子牛の損耗率の低減を図る。



肥育用の雌牛等を用いた増頭対策

・一産取り肥育



未経産肥育雌牛や高齢雌牛に対して、和牛の受精卵を移植し、一産取り肥育を行い、和子牛の生産への取組を図る。

最新の技術を習得した畜産技術者の下で、地域における課題解決のための技術実証により和牛子牛の生産拡大を図る